

私には

〇〇だけがないし

先日の朝日新聞の「折々のことば」を紹介する。

「この国には何でもある。本当にいろいろなものがあります。だが、希望だけがない。」

これは村上龍の小説「希望の国のエクソダス」に登場する中学生のことばだ。

そう言えば、ある大学の授業で学生たちにこの文章を見せて

「もしみなさんがこの国には〇〇だけがないと言ついたら〇〇にはどんなことばを入れますか」と質問したそう。

その結果一番多かったのは「信頼」だったとのこと。

何とも悲しく残念な気持ちになった。

「信頼」は自分一人だけで持つことはできない。相手があてはめて生まれるものだ。

それだけ今の若者たちは、世の中の人と人との結びつきや自分を取り巻く人間関係が希薄だと感じていることなのか。

ところで君たち私には〇〇だけがないしとしたら〇〇には何を入れるだろう。

そしてその〇〇を手に入れるために何をすればいいと思えますか。



あいつさお

新井竹子

あいつさおは

母音といて

日本のことばの

母音といて

福二中
校長室
だより

ほたる草

平成二十七年十一月四日(金)

NO.80